

作成日 JIS Z 7253 : 2012 : 2014年7月1日

改訂日 JIS Z 7253 : 2012 : 2016年6月1日

安全データシート

1.製品及び会社情報

製品名	CHEMLOK 202C
会社名	ロード・ジャパン・インク
住所	東京事務所) 東京都新宿区西新宿 8-4-2 野村不動産西新宿ビル 8F 甲府事業所) 山梨県中央市中楯 811
担当部門	品質保証課
電話番号	055-273-4290
FAX 番号	055-273-5020
緊急連絡電話番号	CHEMTREC 03-4520-9637
整理番号	300001006223
製造国	日本
推奨用途及び使用上の制限	硬化剤

2.危険有害性の要約

[GHS 分類]

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分 2

健康に対する有害性

眼損傷性/眼刺激性 : 区分 2B

呼吸器感作性 : 区分 1

皮膚感作性 : 区分 1

生殖毒性 : 区分 2

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 1 (呼吸器、腎臓)

[ラベル要素]

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

可燃性固体

眼刺激

吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

長期または反復ばく露により臓器 (呼吸器、腎臓) の障害

注意書き :

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
 容器を接地すること、アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 妊娠中、授乳期中は接触を避けること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 取扱い後は手をよく洗うこと。

【救急措置】

火災の場合：適切な消火方法をとること。
 吸入した場合：呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
 ばく露またはその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。
 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学名又は一般名：硬化剤

成分名	化学式	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	含有量 (%)
ヘキサメチレンテトラミン	(CH ₂) ₆ N ₄	100-97-0	(5)-1155	90～95
クロム及び三価クロム化合物	非公開	非公開	非公開	0.1～1.0

4.応急措置

吸入した場合：

被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移す。横向きに寝かせ、気道を確保した状態で、身体の保温に努めること。嘔吐物は飲み込まないようにし直ちに医師の手当てを受けさせること。

皮膚に付着した場合：

付着した身体部位を水で洗浄する。溶剤、シンナー等は使用しない。衣服、靴及び靴下等にかかっている時は、直ちに脱がせ、それらを遠ざける。かゆみ、炎症等の症状がある場合には速やかに医師の診断を受ける。

眼に入った場合：

直ちに大量の清浄な水で15分以上洗った後、医師の手当てを受ける。痛みのため目を擦ることはさせない。

飲み込んだ場合：

誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。嘔吐する場合は、少なくとも頭部を横に向ける。嘔吐物は医師の指示以外、無理に吐かせない。

5.火災時の措置

消火剤： 炭酸ガス、耐アルコール泡、水噴霧、粉末消火薬剤

使ってはならない消火剤： 棒状水

特定の消火方法： 小規模火災では、炭酸ガス、耐アルコール泡、大規模火災では、耐アルコール泡、水噴霧が有効。

消火を行う者の保護： 燃焼時、有毒ガスを発生する可能性があり、保護具を着用し、風上から作業する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

漏出した場所の周辺にロープを張るなどし、人の立入りを禁止する。適切な保護具を着用し作業する。

環境に対する注意事項：

河川等への排出は避けること。

回収、中和、封じ込め及び浄化方法と機材：

少量の場合、かき集めて焼却する。大量の場合、出来るだけ回収し空容器に収納後、廃棄物として処理する。

二次災害の防止策：

作業時は着火源となるものは避け、静電気発生防止にも留意すること。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策

労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。

作業環境を許容濃度以下に保つ。

吸入、接触を避ける。

ばく露の危険性が生じる場合には防護具を着用する。

よく換気された場所で使用する。

喫煙、裸火、熱または発火源を避ける。

取扱い時には、飲食または喫煙をしないこと。

取扱う場合、スパークしない道具を使用する。

蒸気は、静電気によりポンプ中または注入中に着火する可能性がある。

不適合物質との接触を避ける。

取扱い後は、常に、石鹼水で洗浄する。

作業衣は、別々に洗濯するべきである。

正しい作業実施法を定め遵守する。

物質で濡れた衣類が浸透し皮膚に接することは避ける。

注意事項

粉塵爆発について注意すること。

密閉された場所における作業には、適切な保護具の着用と、十分な局所排気装置の稼働を行う。

容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。

使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。

保管：

屋根のある火気、熱源、直射日光等を避けた冷暗所に密栓して保管する。

その他、労働安全衛生法、消防法等の法令の定めることに従う。

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度		許容濃度	
		日本産業衛生学会(2015)	ACGIH(TWA)(2012)	
ヘキサメチレンテトラミン	未設定	未設定	未設定	未設定
クロム及び三価クロム化合物	0.05mg/m ³ (Crとして)	0.05mg/m ³ (Crとして)	0.01mg/m ³ (Crとして)	

設備対策

蒸気の発生源を密閉する設備又は局所排気装置を設ける。

取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

「火気厳禁」、「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。

保護具

呼吸器の保護具： 管理濃度または許容濃度を超える場合、防塵マスクを着用すること。

手の保護具： 皮膚への接触を避けるため、ゴム手袋を着用すること。

目の保護具： 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 作業衣および安全靴を着用すること。

適切な衛生対策：

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

作業中は飲食、喫煙をしない。

一度喘息の症状を示したヒトは、同じ症状を起こすので以降接触しないこと。

9.物理的及び化学的性質

この記載値は代表値であり保証値ではありません。

物理的状態、形状、色など： 赤紫色粉体

臭い： データなし

融点・凝固点： 260～263℃で昇華

沸点、初留点及び沸騰範囲： データなし

引火点： 250℃

爆発範囲（上限・下限）： 粉塵爆発：爆発下限界濃度 15g/m³ 最小着火エネルギー10mJ

蒸気圧： データなし

蒸気密度（空気=1）： 空気より重い

比重： 約 1.27（25℃）

溶解度： 水、酸に溶ける、エーテルに不溶

自然発火温度： 410℃（浮遊粉塵）

粘度： データなし

10.安定性及び反応性

安定性： 通常の条件下では安定。

危険有害反応可能性： 高温（260℃）で昇華する。

避けるべき条件： 加熱、着火源。

漏洩危険物質： 強酸、塩基、強酸化剤、ハロゲン類、ハロカーボン、金属類。

危険有害な分解生成物： 燃焼によりアンモニア、ホルムアルデヒド、NO_x等が発生。

11.有害性情報

急性毒性

急性毒性（経口、経皮及び吸入）

	急性毒性				
	（経口）	（経皮）	（吸入：ガス）	（吸入：蒸気）	（吸入：粉塵、ミスト）
ヘキサメチレンテトラミン	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない
クロム及び三価クロム化合物	分類できない	分類できない	分類対象外	分類対象外	分類できない

急性毒性（経口）

上表の区分の急性毒性（経口）の物質を含む。これより、混合物として急性毒性（経口）区分外に分類される。

急性毒性（経皮）

上表の区分の急性毒性（経皮）の物質を含む。これより、混合物として急性毒性（経皮）区分外に分類される。

急性毒性（吸入）

上表の区分の急性毒性（吸入）の物質を含む。これより、混合物として急性毒性（吸入）区分外に分類される。

皮膚腐食性／刺激性

混合物として皮膚腐食性／刺激性区分外に分類される。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

以下の区分の眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性の物質を含む。

区分 2B；ヘキサメチレンテトラミン

混合物として眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性区分 2B（眼刺激）に分類される。

呼吸器感作性

以下の区分の呼吸器感作性の物質を含む。

区分 1；ヘキサメチレンテトラミン

混合物として呼吸器感作性区分 1（吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ）に分類される。

皮膚感作性

以下の区分の皮膚感作性の物質を含む。

区分 1；ヘキサメチレンテトラミン

混合物として皮膚感作性区分 1（アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ）に分類される。

生殖細胞変異原性

混合物として生殖細胞変異原性区分外に分類される。

発がん性

混合物として発がん性区分外に分類される。

生殖毒性

以下の区分の生殖毒性の物質を含む。

区分 2；ヘキサメチレンテトラミン

混合物として生殖毒性区分 2（生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い）に分類される。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

混合物として特定標的臓器（単回ばく露）区分外に分類される。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

以下の区分の特定標的臓器毒性（反復ばく露）の物質を含む。

区分 1；ヘキサメチレンテトラミン（呼吸器、腎臓）

混合物として特定標的臓器（反復ばく露）区分 1（呼吸器、腎臓）に区分され、有害性情報は、長期または反復ばく露による臓器（呼吸器、腎臓）の障害となる。

吸引性呼吸器有害性

混合物として吸引性呼吸器有害性区分外に分類される。

12.環境影響情報

生態毒性	混合物として、水生環境有害性（急性、慢性）区分外に分類される。
オゾン層への有害性	混合物として区分外に分類される。
残留性／分解性	混合物としてのデータがない。
生物蓄積性	混合物としてのデータがない。
土壌中の移動度	混合物としてのデータがない。

13.廃棄上の注意

- ① 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託する
- ② 焼却処理する場合は、分解ガスとして有毒ガス等を発生するので排ガス処理設備のある焼却処理場で処分する。
- ③ 発生するダイオキシン類の生成を防止するために 800℃以上で燃焼させる。排ガス処理設備が必要である。焼却等で発生した廃棄物についても、関係法規に従い処理するか、処理を委託する。
- ④ 容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去しておく。
- ⑤ 廃棄するまでの容器は必ず密栓し、屋根のある冷暗所に保管しておく。

14.輸送上の注意

国際規格

国連番号： 1328
国連品名： ヘキサメチレンテトラミン
国連分類： クラス 4.1
容器等級： III

特別の安全対策

取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。
火気厳禁。

国内規則

陸上輸送： 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送： 航空法に定められている運送方法に従う。

15.適用法令

化学物質管理促進法：第1種指定化学物質（政令番号、含有量）：ヘキサメチレンテトラミン（第258号、94%）

労働安全衛生法：

- ① 施行令別表第9 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物：クロム及びその化合物
- ② 厚生労働省通達「変異原性が認められた化学物質の取扱いについて」により名称が公表された化学物質：
ヘキサメチレンテトラミン

毒物及び劇物取締法：非該当

消防法：非危険物

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律：非該当

輸出貿易管理令：非該当

16.その他の情報

引用文献

- 1) 化学品法令集（化学工業日報社）
- 2) 化学物質 環境、安全管理用語辞典（化学工業日報社）
- 3) JIS Z 7252：2014 GHSに基づく化学品の分類方法
- 4) JIS Z 7253：2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）
- 5) GHS 分類結果データベース（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）

危険、有害の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱いには充分注意してください。

- ① この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の手配を対象としたものです。
- ② 本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取扱ってください。
- ③ 記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので取扱には充分注意して下さい。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改正されることがあります。